

中齋塾 東京フォーラム
平成 25 年度 第 6 回講話

平成 25 年 6 月 8 日
於 湯島聖堂

昨晩は自宅に電話を入れましたら土砂降りだと言っていました。昨晩と今朝、都内はパラパラ雨でした。パラパラとはいっても起きられる時間帯により変化していました。

4 時台に起きられる方はいますか？

ーお二人。

5 時台は、いかがでしょう？

ー手を挙げられる方が増えてきますね。

6 時台は？

ー圧倒的多数です。7 時台もおられますね。今お聞きした時間帯によって雨の降り方が違っていました。「今朝の雨は、ポツポツでしたね」と言っとうなずく方とそうではない方がいるので、時間帯によって変わる。人生も似通ったものがあるなと思います。

恒例の質問

・6 月に入って嘘をつくことが非常に少なかった方、または自分で少なかったと思う方？

ー多いですね。

・では嘘をまるでつかなかった方？

ーいませんね。

だいたいアンケートとは設問によって答えを誘導しますので、アンケート調査というのは怖いのです。なおかつ大きい見出しで「アンケートを 1 千人に聞きました」とあるもので、仮に 7 割方は賛成と見出しにでます。中身をよく見ると、4 割が積極的に賛成、3 割はどちらかといえば消極的に賛成。しかしこれらの見出しをつける時には 7 割賛成となる。怖いなと思います。よくあるパターンですが、返事を戴いた方・回収率 50%と記事の下の方の隅にちょっとしか出ていません。ものによっては回答率 30%というのもあります。そこら辺は誘導しようと思う方向へ世論をもっていく。昔、総理府はそういう仕掛けをしていたそうです。今も似たようなことをやっていると感じます。よくよく世論の調査、動向調査の発動時には今申し上げたようなことを確認するとよいでしょう。今の「嘘をついた方、つかなかった方」みたいな聞き方でも、ちょっとしたことで答えがまるで変わってきます。

・今月に入ってから健康法を続けている方、自分の健康を大事にしている方？

健康法も、精神的な健康法と肉体的な健康法とで違います。精神的な健康法、トレーニングを今月に入ってから一日でもした方。肉体的なトレーニング、今月に入ってから 2~3 回はしている方。今お聞きする意味は分かりますよね。精神的な健康法と肉体的な健康法は違

うということですよ。

前に会員さんからお風呂に貼る絵を戴きました。自宅の風呂場に貼ってあるのですが、あれは乾くと落ちるのです。でもこの間、庭木に水をやるような形で水をあげると良いということを見ました。自分が必要だなと思うものには水をあげる必要がある。それはどういうものを気にしているかによって変わってきます。今何か心に留めているもの、気にかけているものがおありの方は、意識的に水や栄養をあげてください。けっこう忘れずから意識してください。ただ私もご飯を食べることは忘れません。でもご飯を食べることを忘れるというのは現実にあります。寝食を忘れて没頭するというのはあると思います。寝食を忘れるものが何かおありかどうか。何かあると良いですね。

生き物の話

最近読んでいる本に、自分は激烈な戦いを勝ち抜いてこの世に誕生したという風に感じておられる方がいるかどうか。

副理事長は卵子に向って精子の戦いで、精子の激烈なる戦いを生き抜いた、勝ち抜いたという感覚はありますか？

ーないですね。

もう少し具体的に言います。卵子が受精するには乱婚型と一夫一婦型というのがあるそうです。一夫一婦型というのは競争相手が少なく、乱婚型は競争相手が多い。パンダが受精するのは非常に短く数日間だけです。雄がチャレンジして行って精子が増える。何の話をしているかといえば、ダーウィンの進化論の話です。激烈な戦いを勝ち抜いたものが生き残っていくという適者生存ということですが、最近は違ってきているみたいですが最近の学者の話で、共に生き残ろうという共同歩調をとるとというのが本筋らしいという話です。どちらかといえば、適者生存ではなくて乱婚型の共同歩調をとる精子軍が比較的に生き残るということだそうです。そうすると適者生存の常識は少し違ってきたと感じます。どこまでそれが当てはまるかは分かりません。

今、笑いが起きたでしょう。今度は遺伝子の話で、チンパンジーも笑いますが、人間との違いは2%だったかな、ほとんど同じ遺伝子で組み合わせられているそうです。その同じ遺伝子の中でオン・オフを入れる部分が人間とチンパンジーではちょっと違う。先ほどの精神的な健康法と肉体的な健康法とに繋がるのですが、精神的な部分は笑いが入ると、良い遺伝子のスイッチがオンになる。悪い遺伝子のスイッチが入るとするのは、興味のないつまらない話を聞くなどですね。これは筑波大学の村上和雄教授が吉本興業と組んで糖尿病患者25人に対して実験をしたそうです。糖尿病患者に漫才を聞かせた場合の血糖値の上がり具合と、大学の講義を40分間患者に聞かせた場合の血糖値の上がり具合を調べてみたら、講義を聞いた糖尿病患者の血糖値は平均123mg上がり、対して漫才の方は77mgしか上がらなかった。言い方を変えると、興味のない話を聞くと血糖値が上がるし、色々と悪いスイッチが入ってしまうから、なるべくためになる話や笑いの出る話を聞く方が良い。本

や映画も同じです。自分が心地良い環境を意識して作っていくのが良い。つまらない話を聞かされていると思った時は、さっさと出ると良い。私は実践していますが、人間関係を壊しますので、ほどほどに。

紹介書籍

『月刊 カレント』潮流社

注目したものは、目の見えない方の写真で盲人写真展の記事です。その写真はみな明るい写真ばかりだと書いてありました。原発に関することも書いてありましたし、選挙のことも書いてありました。後の時事評論でもお話しますが、何とか好景気であるという錯覚を日本国中に振舞いおこななければならないと思っていますと、30ページに細かく書いてあります。カレントが面白くなってきたと感じます。

塾長余話

季刊誌・知足の対談で、大野参与の所にお邪魔をしたのですが、鳥インフルエンザを聞こうと思っていたら、のっけから世界危機の話でした。鳥インフルエンザの話もしなければいけないので水を向けましたら、それは世界の危機を招く引き金の一つとして鳥インフルエンザがあるということでした。次回の季刊誌はそのようなことが出ます。カットした部分は私が命の危機に関するもので、参与は私より感度が高くて、その感度の高さによって、カットする部分がありました。

有明駅近くに東京臨海広域防災公園という所があります。地震が来た時に、内閣府と国土交通省の両方が主体で、その公園に現地対策本部を作るということです。既に建物はできていて、機能しているということを御存じの方はいますか。

現地対策本部に200人が座れて大きなスクリーンがあり、会議室も見下ろせる形で見学ができます。防災訓練もできるようになっていました。ここで現地対策本部が機能するということが目に見えて分かります。非常時と平常時と両方の顔を都民に紹介することなので誰でも入れます。一度は見に行くことをお勧めしますので、どうぞお出掛け下さい。

大阪に論語サミットのようなものが始まり出すということで行ってきます。せっかく行きますので、次回は「三島中洲」を刊行予定ですから、三島中洲と山田方谷の故郷岡山県にも行くことにしました。三島中洲の資料を集めてこようと思っています。そして出雲大社にも行って来るつもりです。日本人の原点みたいなものを考えていくと、出雲大社にぶつかるとしています。宗教心のある日本人、特に3・11以降は日本人の原点に近いような心の動き、作用が生まれてきたと思います。日本人の中にも出てきていますし、外国の方から見るとそれが、顕著であろうと感じます。出雲大社に行って出雲大社にある大

きな木と少し対話をしてみたいと思っています。屋久島へ以前行った時に、紀元杉を触って何か対話ができたとイメージが浮かびました。昨日は上野公園に行きまして、その中の三本ほど触ってみました。木の生命力を手で触ってみて、一体化してみようと思いつつエネルギーを体中に受けて、また身体から出すという呼吸法をやってみると、何かしらのイメージが私は浮かんできます。前にも申し上げたことがあります、劇を主宰し脚本や演出をする人と話していましたが、その人はアイデアが枯渇すると真夜中に外へ出て近くにある神社の大木に抱きつく。しばらく抱きついているとイメージが浮かぶそうです。私は抱きつかないけれども、触って呼吸法をしていると何かしらイメージが浮かびます。

素読論語解説 一 顔淵第十二

【一】顔淵 仁を問う。子曰く、己に克ちて礼を復むを仁と為す。一日己に克ちて礼を復まば、天下 仁に帰せん。仁を為すは己に由る。人に由らんやと。顔淵曰く、其の目を請い問うと。子曰く、礼に非ざれば、視ること勿かれ。礼に非ざれば聴くこと勿れ。礼に非ざれば動くこと勿かれと。顔淵曰く、回 不憫なりと雖も、請う 斯の語を事せんと。

顔淵が仁について尋ねました。孔子が答えたのは、「自分自身の欲望にうち勝って、礼にのっとった行動をする」

礼は天下・国家を治める道。礼は二つありまして、大礼と小礼があります。大礼は天下国家を治める道。小礼は個人の身を治める、または一家・家族を治めると考えれば良いでしょう。

「一日だけでもよいから、自分の私欲にうち勝って天下国家を治める正しい道を実行する。こういうことが出来れば、人々は仁を目指し仁になびき、どんどんと人が集まることになるだろう。仁を実行するのは自分次第。他人に頼ってはいけない。自分自身の努力で実行するものだ」と孔子は答えました。

顔淵が「具体的な方法を教えて下さい」と孔子に尋ねました。孔子が言うには、「よくあることで、礼に外れていれば、見てはいけない。耳を傾けてもいけない。行動してもいけない」

なかなか難しいですが、どれかを目指せばよいのですから目指して見ましょうか。アベノミクスは礼にあらざるばかりですから、やってはいけないことが多すぎますね。

顔淵曰く、「私は鈍才」と言っている。ここら辺は良く分からないのですが、謙遜なのか正直に言っているのか分からない。「先生のお教えを実行したいと思います」と宣言をしました。

顔回は宣言をして有言実行です。我々も宣言をした方が実行し、より達成できると思います。

時事評論 一長年の疑問が氷解

私が長い間、気にしていたものの答えが木内信胤先生の「私の履歴書」に書いてありました。今日の主題である学問は、横・縦・点・面という言い方をしています。横の学問は前にも申し上げましたが、政治家のように浅く広く承知しているという感じで、縦の学問は本質を追究しどんどん掘り下げていく。ただ横と縦だけではなくて、ある日突然悟る。それはノーベル賞を受賞した人達が散歩をしている時に閃いたとかトイレにいた時に閃いたとか、まるっきり関係ない時に閃く。閃く部分が点の学問と面の学問からとっていますので、縦と横が始まりでしたら色々な分野の関係なさそうな情報をどんどん取り入れていく。

時事評論の方法でお喋りをしています。時事評論をする時には本質をすぐ見抜く必要がありますけれど、どうすれば本質が時事問題で見えてくるか。なるべく違う情報を取ると、それが点で見えてきます。ある日、点がどんどん集約されて、もしかするとまるっきり違う点が吸い寄せられていくと、面になった瞬間に閃いて悟りが発生する。木内信胤先生は「小さな閃きが小さな悟り」と言っておられます。小さな悟りがたくさん集まると突如として大きな悟りに変わる。我々はできる限り色々な情報を取っていく、また一つのテーマがあったら気にして追いかけていく。

私は、これからの日本はアベノミクスが失敗をして日本が更に酷い状況になると申し上げていますが、アベノミクスは日本が一時的に好景気だなという気持ちをもたせるけれども、結果的に日本が落ちていく役回りで生れたと私は思っていますので、良さそうに見えても最終的には日本が奈落の底に沈んでいく大きな牽引車であろうと考えています。そうしますと終戦直後はどうだったかとよく申し上げていますが、終戦直後には金融封鎖がありました。どうして金融封鎖をしたのか。また財産税を何故作ったのか。原因が分からないままです。ただそういう事が起きたことは国会図書館に行けば、その時の新聞記事に書いてあります。何度も御紹介していますから御存じの通りですが、「誰が」という部分が分かりませんでした。そしたら答えは身近にありました。信胤先生の「私の履歴書」の中に書いてありました。

「私の履歴書」から

文書課長の愛知揆一、次官山際正道、主税局長池田勇人、官房長が福田赳夫、物価部長が工藤昭四郎といったメンバーで省議があった。愛知さんは農林省に呼ばれて食糧の供出制度が崩れ始めている。農家は売り惜しみ、金のある人は買いだめを始めた。食糧が足りないので、今日本にある供出配給制度は守らなければならない。でも農家の人が売り惜しみを始めたから、売り惜しみをしないで国民に食べ物が出るように農家の人は供出をして欲しい。駄目な人は警察の権力で取り締って逮捕をする。罰則をするということで強権を発動したい。違反者は警察の特権で処罰をする覚悟を決めたから、大蔵省にもできることだけの事をして貰いたいと言われた。それで当時の大蔵大臣は渋沢栄一の孫でしたが、渋沢敬三は1千万人餓死説を承知し、その中の書き方としては、買いだめをする資金を国民

に持たせないようにすれば、供出制度は守られるだろう。大蔵省としては、そういうことをやろう。それについては預金封鎖をしよう。現在出回っている貨幣、通貨を無効にして預金をする。国民は一律、一人1ヶ月300円しか使えない様にする。これを成功させるためには極秘に準備して、ある日突然やらなければならん。それはのちに2月16日と決まったと書いてありました。

その密議をした頃、木内信胤先生は終戦連絡部長でした。その旨をGHQに伝えて了解を取るのが木内先生の仕事になったとあります。秘密は完全に守られて、洩れたのは発表する数時間前だったと書いてある。これを読むと、供出制度はこれによって金融封鎖は成功したが、ただその後ひどいインフレになったので内需が収まるまで物価が100倍になったということが淡々と書いてありました。

財産税は…

「私の履歴書」を読むと、大蔵省終戦連絡部長としての仕事は、第一は金融封鎖、第二が政治の保証債務を実行させて貰いたいというのが仕事だった。思いついたのが財産税である。渋沢蔵相が「死んだら相続税を払うつもりで財産税を払おうではないか」と言ったのである。その場合どれくらいお金が取れるかと計算をしたら、国民の中で富裕の人達から財産税を取れば政府の保証債務は全額払えると分かったので、GHQに交渉して承認をとるのが木内信胤先生の大きな仕事だった。これは取れたと書いてありました。木内信胤先生がされたことは結構大きなことだったと感じます。その当時、それに関与した人達は今名前が残っている人達ばかりです。

もう一つ面白いことが書いてありますが、御本人が狸穴に住んでいて、自分の地所で追放になった時に、落花生を作りカボチャを作り鶏小屋を建てて4匹の鶏を飼ったら、毎日卵を産んでくれたということが、わずか2枚の紙に書いてありました。長年疑問に思っていたことがそこで氷塊をしました。はからずも富裕税をかけた原因が見えました。原因が見えたということは、今の日本がアベノミクスを失敗してその後に出てくるものとして大義名分を立てば、ここら辺のクラスの人達に渡りを付けておくと色々見えてくるでしょう。

中斎塾フォーラムの中では、当時の財産税いわゆる富裕税、預金封鎖を実行した時の状況、終戦直後のものが見える訳です。景気、動機、環境も分かる。関係した人も分かるということは、これから起きるものは、どういう省庁のどういうポストにいる人達、どういう人間がどう動議を巡らすのか、どういう結論が出るのかが少しは見えてくる。そうするとそれに対する対策や納得のいく手が打てるという風に考えられます。だんだん近づいていますから、ここ数年でその動きが出ます。ここに鶏4羽を飼ったとありますから、私も鶏を飼いますかね。肉を食べるのに、渋沢栄一さんは「ネズミを捕まえて食べたら美味しかった」という話が残っていますが、これからたんぱく質を取るものは何だろうと思えます。動植物で手軽に育てられるものは何があるのかを木内先生の文章から連想することができる。ということで木内信胤研究会の中でも、そういうものもやらなければいかんなど

感じます。

6月には本質・大局・歴史を追いかけていますが、縦の学問、横の学問、面の学問というものも先ほどこちよつと説明をしました。でき得る限り、時事評論ではまるで関係ないものを情報として取り入れて、ある程度ためていくと突如それが変化していきますから、そのように考えて戴くと良いでしょう。

点の学問 新聞記事から

「焦点」と大きな記事が出ていますが、要支援と認定された軽度の高齢者向けサービスを保険の対象から外すかどうかの議論になると書いてあります。何のことはない、コストカットだと言っています。

点の学問は連想ゲームみたいなものですから、生活保護の介護保険から連想し、浮かんで見えてくるのは、生活保護のコストカットと浮かんでくる。今、生活保護の人達はまともにお金を払わない。今までは入口に行って申請をすると、必ず受けなければいけない。窓口で排除をしたら、上の方から注意がその自治体に行くということで、みな受けなければいかんという流れだったのが、今窓口で排除するという動きに変わりました。仮に私がひっくりかえって動けなくなって生活保護の申請をすると、私は兄がいるのですが、では兄の資産はどれぐらいあるのか資産証明と一緒に付けて申請をして下さい。また母親が生きているので、では母親の資産証明を付けて下さいと、ひと頃とはまるで違う受付方法に変わっています。目に見えない所で変わっています。コストカットというものが連想で入ります。同時に年金もどんどんカットです。例えば、家内が65歳になりました。そうすると年金が増額になる。家内は喜ぶ。私宛に来るものは、奥さんが1歳違いで年金需給ですから、その分貴方からカットします。何のことはない亭主の年金をカットして女房の方にいくのかと単純に思います。色々細かい説明はありますが、結局はコストカット。日本政府は目くらましを使う。介護保険で軽度者が焦点だよというものから、色々な点が広がっていく。

昨日の新聞で、アベノミクスが業界から反発が出るような改革には一切踏み込まない骨太方針という見出しが、実際には骨細、薄くなった方針が発表されましたと書いてあります。気に食わないのは、骨太方針という見出しです。中身を読むと批判で骨細方針になっているという書き方です。

財政再建策先送り、国土強じん化は明記をしたけれど、どうやって増やすか、どうやって予算を削るのかという具体策が記してありませんと、昨日の新聞にありました。

アメリカでオバマさんと中国の習近平さんが会談をしますと幾つも書いてありますが、これによってアメリカと中国が手を結べば、日本にどのような影響がくるのかという点については、ちょこちょここと匂わしているという新聞記事です。

私が今日見たものは、中国の軍事力が増強し、米軍の行動を制約するという大きな見出しですが、要は中国とアメリカがお互い大国と認め合いましょうと。お互いが裏で手を握

って世界を自分の思うように動かしていくには、どうしたらよいかと握れる所は握りましようかと会談するんじゃないのという風に見える。

それから今朝の新聞で、スマホの出す電磁波の影響を頭だけではなくて全身に対するものも調べますという記事です。何のことはない電磁波は身体に悪いと書いてある。

ここで点の部分をいっぱい話しましたが、そういうものを眺めていると、電磁波の話で横の部分で考えますと、電磁波が人類に与える影響というものは…たくさんありますよね。

電磁波の「縦のもの」または「本質は？」と言及したら、人類は生きていられるかどうかの瀬戸際にきているという話に直結してくる。縦の学問から眺めて、人類の危機というものに直結するという読み方は時事評論の中で出来ます。

時事評論の判断基準は、日本の国はだったらどうなるのか、世界はどうなるのか。また人類の視点でみるとそうなるならば、日本はどうか。日本人はどうかという風に見ていく必要がある。日本人はどうかと思ったら本を読むだけでは駄目で、日本人の心というような漠然としたものですが、日本人の心を感じられるような場所に出掛けて行き、自然と対話をするという体験をしなければいけない。自然と対話することによって、自分の心の中の点の知識情報がある日突然に変化をします。変化をするためには体験がどうしてもいる。体験を意識していかなければならない。

心身脱落を起す

点の学問でいく時に、オヤッと思った時の新聞記事は取っておきます。色々な情報を捨てないで一年ぐらい取っておくと、繋がってきます。ちなみに木内信胤先生は青いボールペンと赤いボールペンで線を引っ張っていました。線を引っ張ることによって頭の中に沁み込んでくるから、点が面になったり横の部分に繋がったり、最終的には縦に繋がってある日突然、心身脱落を起す。心身脱落というのは悟りの実体験のようです。木内信胤先生は「手足の踏みどころを知らず」という書き方をしています。手が踊っていて足が踊っていて、どういう訳か坂を下りる時にその様な感覚になった。小さな体験、感覚を張っていると、どこかでハッと思う日があります。ハッと思う時に、これだと思えるものがあるかどうか。それは自分自身の行動を大きく変えるものかもしれません。大きく変えるものというのは、判断基準を変えてしまいます。